





4275
1



拾遺和歌集卷第一

春



去五味均平蔵

平林院南文の歌よみ

三吉忠岑

春の心も多しやうの心もすてにいなをん
兼平の年中又賀しはりつ時を屏風註

紀文幹

春の心も多しやうの心もすてにいなをん
つとて春の心もすてにいなをん

つとて春の心もすてにいなをん

冷泉院南文の歌よみ

平林院南文

源宣之

つとて春の心もすてにいなをん

延光寺時月法師の歌よみ 善性法師

つとて春の心もすてにいなをん

天曆中時月の歌よみ 源順

つとて春の心もすてにいなをん

平林院南文

つとて春の心もすてにいなをん

平林院南文

つとて春の心もすてにいなをん

平林院南文

つとて春の心もすてにいなをん

天曆七年三月廿九日由裏の歌よみ

くひをたもゆるかひをかたむかひにまじりて
萬葉のまじり

大伴家持

くらげにちりしうらみあつてふもあはれのおもひに
類一

柿本元

あつてふもあつてふもあつてふもあつてふもあつて
延喜御書目よしてふもあつてふもあつて

所也

じつえふあつてふもあつてふもあつてふもあつて
不所 南特出屏風よ

不所

少きふ又あつてふもあつてふもあつてふもあつて
冷東院南屏風は梅の花あつてふもあつて

ころ

平直風

まじりてあつてふもあつてふもあつてふもあつて
不所 南屏風よ

不所

あつてふもあつてふもあつてふもあつてふもあつて
りころよすもあつてふもあつてふもあつて

つて

あつてふもあつてふもあつてふもあつてふもあつて
類あつて

人丸

あつてふもあつてふもあつてふもあつてふもあつて
恒佐方不所家の屏風よ

貫

あつてふもあつてふもあつてふもあつてふもあつて
あつてふもあつてふもあつてふもあつて

圓融院御案

予の跡よおぼくは...
予の跡よおぼくは...
予の跡よおぼくは...

類ありし

大伴家持

まはしあひら...
まはしあひら...
まはしあひら...

大伴家持...
大伴家持...
大伴家持...

まはしあひら...
まはしあひら...
まはしあひら...

まはしあひら...
まはしあひら...
まはしあひら...

まはしあひら...
まはしあひら...
まはしあひら...

まはしあひら

大伴家持

まはしあひら...
まはしあひら...
まはしあひら...

大伴家持...
大伴家持...
大伴家持...

大伴家持

まはしあひら...
まはしあひら...
まはしあひら...

大伴家持...
大伴家持...
大伴家持...

大伴家持

まはしあひら...
まはしあひら...
まはしあひら...

類ありし

大伴家持

まはしあひら...
まはしあひら...
まはしあひら...

まはしあひら...
まはしあひら...
まはしあひら...

まはしあひら...
まはしあひら...
まはしあひら...

大伴家持

まはしあひら...
まはしあひら...
まはしあひら...

大伴家持

まはしあひら...
まはしあひら...
まはしあひら...

大伴家持

ふらふらと風を吹かすに似たりとてはかたむすむとて

壬午句ありと

ふらふらと風を吹かすに似たりとてはかたむすむとて

屏風也

大中の法道

ふらふらと風を吹かすに似たりとてはかたむすむとて

壬午句ありと

元何内躬恒

ふらふらと風を吹かすに似たりとてはかたむすむとて

壬午句ありと

ふらふらと風を吹かすに似たりとてはかたむすむとて

壬午句ありと

中務

ふらふらと風を吹かすに似たりとてはかたむすむとて

壬午句ありと

ふらふらと風を吹かすに似たりとてはかたむすむとて

天曆九年申の葉書也。

ふらふらと風を吹かすに似たりとてはかたむすむとて

題ありと

ふらふらと風を吹かすに似たりとてはかたむすむとて

昔家万葉集也

ふらふらと風を吹かすに似たりとてはかたむすむとて

題ありと

壬午句ありと

ふらふらと風を吹かすに似たりとてはかたむすむとて

天曆九年申の葉書也。

清原之師

もよほしむらさきとて記しうらとていふわのふたはくさ

平治のふたはくさ。 かくは

春のふたはくさとて記しうらとていふわのふたはくさ

賀正のふたはくさ。 藤原千景

ふたはくさとて記しうらとていふわのふたはくさ

天曆のふたはくさ。 かくは

ふたはくさとて記しうらとていふわのふたはくさ

類す。 在原之方

ふたはくさとて記しうらとていふわのふたはくさ

義平のふたはくさ。 かくは

赤文の侍

ふたはくさとて記しうらとていふわのふたはくさ

平治の中將敷忠朝のふたはくさ

かくは

ふたはくさとて記しうらとていふわのふたはくさ

平治のふたはくさ。 かくは

伊勢

ふたはくさとて記しうらとていふわのふたはくさ

かくは。 かくは

ふたはくさとて記しうらとていふわのふたはくさ

かくは

ふたはくさとて記しうらとていふわのふたはくさ

圓融院のふたはくさ

平蔵

とよむとてくもあはれしものぞとてゆく今もあはれ

廿二日

今命す

さう又も我方があはれなる人さうもあはれとて行へ
権中納言義隆の御代にさうもあはれに

藤原長法

かゝるあはれとてあはれにたれもさうあはれ

廿一日

今命す

かゝるあはれとてあはれにたれもさうあはれ
かゝるあはれとてあはれにたれもさうあはれ

天曆南時屏風

藤原清日

かゝるあはれとてあはれにたれもさうあはれ

廿一日

今命す

かゝるあはれとてあはれにたれもさうあはれ

屏風

かゝるあはれ

かゝるあはれとてあはれにたれもさうあはれ

廿一日

今命す

かゝるあはれとてあはれにたれもさうあはれ
かゝるあはれとてあはれにたれもさうあはれ

かゝるあはれとてあはれにたれもさうあはれ

廿一日

今命す

かゝるあはれとてあはれにたれもさうあはれ
かゝるあはれとてあはれにたれもさうあはれ

廿一日

今命す

かゝるあはれとてあはれにたれもさうあはれ

あまの院の巻一

あまの院の巻一

期一

あまの院

あまの院の巻一

天曆中時

小貞命

あまの院の巻一

期一

あまの院

あまの院の巻一

天曆中時

源順

あまの院の巻一

あまの院の巻一

惠康法師

あまの院の巻一

期一

あまの院

あまの院の巻一

期一

あまの院

あまの院の巻一

あまの院の巻一

あまの院

あまの院

あまの院の巻一

期一

あまの院

あまの院の巻一

あまの院の巻一

延長中時

見らるるもなほくもいとほしきやうに

松林の晴月のまはるる

おとしなすらるる所いほくもいとほしきやうに

同三月はつらにりりり

午つ孫

つちうしよもさうもつちうしよもさうもつちうしよも

あつち

指道和歌集卷第二

表

天曆の晴月のまはるる

大中の松道

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

月丸

あつち

おとしなすらるる所いほくもいとほしきやうに

松林の晴月のまはるる

同三月はつらにりりり

源亨

おとしなすらるる所いほくもいとほしきやうに

松林の晴月のまはるる

盛明

おとしなすらるる所いほくもいとほしきやうに

同三月はつらにりりり

あつち

まゝにうらなひのうらなひをたのむにのこがひひらるる
東武院中待坐并凡の 平の御りク

あつふ
あつふ

しんじゆあつふの平あつふりうろくしんじゆあつふ
延長中待飛香舎と藤苑真徳の御り

小路の御り

あつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふ
そのあつふ

躬恒

あつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふ
たつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふ

柿本丸

あつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふ
あつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふ

平公藏

あつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふ
あつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふ

千向あつふ

あつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふ
あつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふ

千の御

あつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふ
あつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふ

千の御

あつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふ
あつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふ

千の御

あつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふ
あつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふあつふ

千の御

天曆二年四月廿五日
天皇御時
天曆二年四月廿五日

天皇御時

天皇御時

天皇御時

平道盛

天曆二年四月廿五日

天曆二年四月廿五日

天皇御時

天皇御時

天皇御時

天皇御時

天皇御時

天曆二年四月廿五日

延喜御時御書

午向あつて

お月御しつゝあつてしるる川うらあつてもましをいふまゝに

屏風

午向能書

昨日よそそお思へるやうな御書に御書に御書に御書に

その一六

午向あつす

あつた御書に御書に御書に御書に御書に御書に御書に

延喜御時

つゝあつた御書に御書に御書に御書に御書に御書に御書に

午向あつて

あつた御書に御書に御書に御書に御書に御書に御書に

天曆御時御書

延喜御時

あつた御書に御書に御書に御書に御書に御書に御書に

あつた御書に御書に御書に御書に御書に御書に御書に

小治政の御書に御書に御書に御書に御書に御書に御書に

その一七

延喜御時

あつた御書に御書に御書に御書に御書に御書に御書に

その一八

午向

あつた御書に御書に御書に御書に御書に御書に御書に

題

午向あつて

あつた御書に御書に御書に御書に御書に御書に御書に

あつた御書に御書に御書に御書に御書に御書に御書に

あつた御書に御書に御書に御書に御書に御書に御書に

大伴坂と即

はるかにいづれにふりかへりては

中務

なほつらつらとてはなほつらつらとては

延喜式時中

平

あはれはあはれはあはれはあはれはあはれは

いづれ

藤原實方朝

あはれはあはれはあはれはあはれはあはれは

題

平

あはれはあはれはあはれはあはれはあはれは

源順

あはれはあはれはあはれはあはれはあはれは

延喜式時月

あはれはあはれはあはれはあはれはあはれは

九條右大臣

平

あはれはあはれはあはれはあはれはあはれは

女

平

あはれはあはれはあはれはあはれはあはれは

延喜式時

平

あはれはあはれはあはれはあはれはあはれは

河原院の御成程はすなはて

惠慶法師

おけりつりては木とてしひらけを友言ひてと書けりか
家へてはうけりてはうけりてはうけりてはうけりては

伴勢

河原院の御成程はすなはて
おけりつりては木とてしひらけを友言ひてと書けりか

おけりつりては木とてしひらけを友言ひてと書けりか

藤原長法

おけりつりては木とてしひらけを友言ひてと書けりか

おけりつりては木とてしひらけを友言ひてと書けりか

おけりつりては木とてしひらけを友言ひてと書けりか

藤原長法

おけりつりては木とてしひらけを友言ひてと書けりか

おけりつりては木とてしひらけを友言ひてと書けりか

拾遺和歌集卷第三

秋

わかれしうらふさむし 舟宿の師

えらうきくひのあつたはゆふふとせしけりたつとせ

歎しけり 今人あはれ

わかれしうらふさむし 舟宿の師

延喜南時屏風

あはれしうらふさむし 舟宿の師

舟宿の師

舟宿の師

わかれしうらふさむし 舟宿の師

舟宿の師

わかれしうらふさむし 舟宿の師

延喜南時屏風

わかれしうらふさむし 舟宿の師

舟宿の師

わかれしうらふさむし 舟宿の師

舟宿の師

わかれしうらふさむし 舟宿の師

わかれしうらふさむし 舟宿の師

舟宿の師

わかれしうらふさむし 舟宿の師

舟宿の師

わかれしうらふさむし 舟宿の師

ひさし

しりあそくしりあそくしりあそくしりあそくしりあそく
延慶時月の空身凡

しりあそくしりあそくしりあそくしりあそくしりあそく
有徳門猪涼清彦家此身凡

しりあそくしりあそくしりあそくしりあそくしりあそく
右兵衛猪涼清彦家此身凡

惠康法師

しりあそくしりあそくしりあそくしりあそくしりあそく
七夕度申しりあそくしりあそくしりあそくしりあそく

しりあそく

しりあそくしりあそくしりあそくしりあそくしりあそく
しりあそくしりあそくしりあそくしりあそくしりあそく

題しりあそく

しりあそく

しりあそくしりあそくしりあそくしりあそくしりあそく
しりあそくしりあそくしりあそくしりあそくしりあそく

しりあそくしりあそくしりあそくしりあそくしりあそく
しりあそくしりあそくしりあそくしりあそくしりあそく

しりあそく

しりあそくしりあそくしりあそくしりあそくしりあそく
しりあそくしりあそくしりあそくしりあそくしりあそく

しりあそく

しりあそくしりあそくしりあそくしりあそくしりあそく
しりあそくしりあそくしりあそくしりあそくしりあそく

題しりあそく

しりあそく

あつたつたを所はよすち十郎をのりていへん

源頼朝を裁す。向うて 藤原長法

ひとしよ。たつたをのりていへん

付くう。鷹う。あつたつたをのりていへん

惠康法師

秋のこもあつたつたをのりていへん

赤院屏風。よふ合の法

うよそつたつたをのりていへん

やい。つた

秋のこもあつたつたをのりていへん

紀貫之

うよそつたつたをのりていへん

湯成院屏風。よふ合の法

うよそつたつたをのりていへん

丹子院屏風。よふ合の法

伊豫

うよそつたつたをのりていへん

やい。つた

うよそつたつたをのりていへん

少将。よふ合の法

大貫直遠

うよそつたつたをのりていへん

徳義院屏風。よふ合の法

うよそつたつたをのりていへん

身風は月と雲池の家のふりかへるお

源光のよ

水ありて海月の影をさすこころをわらわすまげ

水は月影をうけてるいさよ　うのよ

秋の月の影をうけてるいさよ　うのよ

廣義の家の影をうけてるいさよ　うのよ

わろお　源景明 有為

秋の月の影をうけてるいさよ　うのよ

圓教院時分月とぬれしつら

うのよ

わろお　わろお　うのよ

延教院時分月とぬれしつら

うのよ

藤原経の

うのよ　うのよ　うのよ

わろお　うのよ

うのよ　うのよ　うのよ

わろお　うのよ

うのよ　うのよ　うのよ

廣義の家の影をうけてるいさよ　うのよ

藤原為頼

うのよ　うのよ　うのよ

わろお　うのよ

伊勢

うのよ　うのよ　うのよ

昇風。

此の巻

此の巻にはたゞらむ去つての事なりとていふ事あり。此の巻の事なり

題一

今この巻

此の巻の事なりとていふ事あり。此の巻の事なり

今この巻

此の巻の事なりとていふ事あり。此の巻の事なり

此の巻の事なり

此の巻

此の巻の事なりとていふ事あり。此の巻の事なり

此の巻の事なり

此

此の巻

此の巻の事なりとていふ事あり。此の巻の事なり

此の巻

此の巻

此の巻の事なりとていふ事あり。此の巻の事なり

此の巻の事なり

此の巻の事なりとていふ事あり。此の巻の事なり

此の巻の事なり

此の巻の事なりとていふ事あり。此の巻の事なり

此の巻の事なり

此の巻の事なりとていふ事あり。此の巻の事なり

此の巻

此の巻

此の巻の事なりとていふ事あり。此の巻の事なり

此の巻

此の巻の事なりとていふ事あり。此の巻の事なり

あはれなる御心... 道は保家... 御心...
あはれなる御心... 道は保家... 御心...

惠康法師

あはれなる御心... 御心...
あはれなる御心... 御心...

あはれなる御心... 御心...
あはれなる御心... 御心...

あはれなる御心... 御心...
あはれなる御心... 御心...

あはれなる御心... 御心...
あはれなる御心... 御心...

健守法師

あはれなる御心... 御心...
あはれなる御心... 御心...

あはれなる御心... 御心...
あはれなる御心... 御心...

惠康法師

あはれなる御心... 御心...
あはれなる御心... 御心...

源安光朝

源景光

先祖不見
本卷少有景明文

故よ...と...しん...の...は...の...の...の...の...

やう...と

あ...と

ら...の...の...の...の...の...の...の...の...

る...と

は橋観教

後大僧都 延暦

水...の...の...の...の...の...の...の...の...

二...の...の...の...の...の...の...の...の...

あ...と

息慶法師

あ...の...の...の...の...の...の...の...の...

や...と

ふ...と

あ...の...の...の...の...の...の...の...の...

延長法持中又四岸氏

あ...の...の...の...の...の...の...の...の...

や...と

信正遍昭

あ...の...の...の...の...の...の...の...の...

あ...と

あ...の...の...の...の...の...の...の...の...

あ...の...の...の...の...の...の...の...の...

あ...の...の...の...の...の...の...の...の...

右馬清云任

あ...の...の...の...の...の...の...の...の...

あ...と

あ...と

あ...の...の...の...の...の...の...の...の...

今。紅葉うきうきとすなり

三十一 紅葉

又。今。紅葉うきうきとすなり

今。紅葉

今。紅葉うきうきとすなり

今。紅葉

平重盛

今。紅葉うきうきとすなり

今。紅葉

新道和歌集卷第百

冬

延喜所待の侍りて賀の身風也

紀貫之

今。紅葉うきうきとすなり

寛和三年清凉殿の侍りて賀の身風也

今。紅葉

今。紅葉うきうきとすなり

特雨。待りて

今。紅葉うきうきとすなり

今。紅葉

今。紅葉うきうきとすなり

とよむらひのうらみはなほつらきとてかへりて

紀友則

ふらふらとたふさふさのうらみはなほつらきとてかへりて

千代あきと

水うらみはなほつらきとてかへりて

屏風一

平道盛

うらみはなほつらきとてかへりて

千代あきと

千代あきと

冬うらみはなほつらきとてかへりて

恒徳公家屏風一

うらみ

冬うらみはなほつらきとてかへりて

うらみ

冬うらみはなほつらきとてかへりて

千代あきと

紀友則

冬うらみはなほつらきとてかへりて

うらみ

冬うらみはなほつらきとてかへりて

廣義公家障子

うらみ

冬うらみはなほつらきとてかへりて

千代あきと

千代あきと

冬うらみはなほつらきとてかへりて

月とてあきと

惠慶法師

冬うらみはなほつらきとてかへりて

冬うらみはなほつらきとてかへりて

輝葉明

浄宗院南持出屏風。

つゆり

今も世もまよふまよふに心をこめてしるすにまよふまよふ
屏風。

つゆりの

わらわらとまよふまよふにまよふまよふにまよふまよふ
右馬門猪公任

梅えよまよふまよふにまよふまよふにまよふまよふ
屏風の繪。佛をたぶらふ。

まよふまよふまよふまよふにまよふまよふにまよふまよふ
浄宗持出屏風。

まよふまよふまよふまよふにまよふまよふにまよふまよふ
屏風の繪。佛をたぶらふ。梅の木をたぶらふ。道師をたぶらふ。

つゆりの

まよふまよふまよふまよふにまよふまよふにまよふまよふ
屏風の繪。佛をたぶらふ。

つゆり

まよふまよふまよふまよふにまよふまよふにまよふまよふ
浄宗持出屏風。三月はにらむ花

まよふまよふまよふまよふにまよふまよふにまよふまよふ
百首のうた。

まよふまよふまよふまよふにまよふまよふにまよふまよふ
つゆり

柏道和歌集卷第五

賀

天曆中時麻呂とてはるの討長奉送使とて白く入

るん

中納言朝忠

あはれみちとてはるの討長奉送使とて白く入
るん

まをさし

大中納言

りあつしつれはるはるまよひあはれみちとてはるの
仁和納時大寄金持

まをさし

鴨宮原の山にふんばせぬ兵部は平はこれ
うたはるははる

清原之輔

あはれみちとてはるの討長奉送使とて白く入
藤原のうたはる

あはれみちとてはるの討長奉送使とて白く入
あはれみちとてはる

あはれみちとてはるの討長奉送使とて白く入
あはれみちとてはる

平の侍

あはれみちとてはるの討長奉送使とて白く入
あはれみちとてはる

藤原誠信之服

源順

かよひのたけしこもかたはるはなすのせよせし
そつとせよこつとせよつとせよつとせよ

よしの

おひらきしはらひのたけしこもかたはるはなすのせよせし
又唐のそつとせよつとせよつとせよつとせよ
金谷壽命経三巻とて供養しそつとせよ
巻教のそつとせよつとせよつとせよつとせよ
物へのそつとせよつとせよつとせよつとせよ

つた

かよひのたけしこもかたはるはなすのせよせし
仲昇法師

かよひのたけしこもかたはるはなすのせよせし

美平で年中又つ賀しつとせよつとせよ

藤文内侍

又らぬたけしこもかたはるはなすのせよせし
ねつとせよつとせよつとせよつとせよ

大中と頼基

つとせよつとせよつとせよつとせよ
清慎云又つ賀しつとせよつとせよ

つた

かよひのたけしこもかたはるはなすのせよせし
美平で年中又つ賀しつとせよつとせよ

つた

お新入の七十賀一はしり行のはるはるして

よのよ

お新入の七十賀一はしり行のはるはるして
お新入の七十賀一はしり行のはるはるして
お新入の七十賀一はしり行のはるはるして

身丸よ

小野好古朝

権中納言敷忠母の賀一はしり

源忠朝

大隈忠朝の賀一はしり民部卿清貫一はしり母身丸

伴勢

天保三年由裏一はしり算とせ給ひつり

九條右大臣

お新入

千人あつた

お新入

千はれ

お新入の七十賀一はしり行のはるはるして
お新入の七十賀一はしり行のはるはるして
お新入の七十賀一はしり行のはるはるして

康保三年由裏一はしり目とせ給ひつり一殿とせ給ひつり

藤原の子

ろくろの世に... 子日... 家... 三原大政... 廣義

延長清持... 氏... 子日... 氏...

物... 氏... 氏...

美平... 氏... 氏...

本議行衛

天曆... 氏... 氏...

小節... 氏...

廣義... 氏... 氏...

平並盛

氏... 氏... 氏... 氏...

氏... 氏... 氏... 氏...

氏...

氏... 氏... 氏... 氏...

こころをよめるものなりてはさるるかたもあらはれ

伊勢

らたけつはるるものなりてはさるるかたもあらはれ
物
まがらふものなりてはさるるかたもあらはれ

有る屏風
いづれはさるるものなりてはさるるかたもあらはれ

さるるかたもあらはれ

拾遺和歌集卷第六

別

まがらふものなりてはさるるかたもあらはれ
さるるかたもあらはれ

まがらふものなりてはさるるかたもあらはれ

まがらふもの

まがらふものなりてはさるるかたもあらはれ
まがらふものなりてはさるるかたもあらはれ
まがらふものなりてはさるるかたもあらはれ

まがらふもの

まがらふものなりてはさるるかたもあらはれ

天曆神皇正統記卷第六

後日せぬ。うもむなふら

御製

夏うららかにるるに
秋のつらさをしのび
春のあつさをしのび
冬のはげしさをしのび
一年あはれ

題一は

よからぬ列ら。あつさをしのび
秋のつらさをしのび
春のあつさをしのび
冬のはげしさをしのび
可もあれす。うららかにるるに
秋のつらさをしのび
春のあつさをしのび
冬のはげしさをしのび

天曆神曆九月十八日林下ふさふさうなむ。

樂天唐の三十一母唐の三十一代明の

御製

志代よ。月なた。あつさをしのび
秋のつらさをしのび
春のあつさをしのび
冬のはげしさをしのび
十月神よ。うららかにるるに

せん

あつさをしのび
秋のつらさをしのび
春のあつさをしのび
冬のはげしさをしのび

うららかにるるに
秋のつらさをしのび
春のあつさをしのび
冬のはげしさをしのび

せん

あつさをしのび
秋のつらさをしのび
春のあつさをしのび
冬のはげしさをしのび

うららかにるるに
秋のつらさをしのび
春のあつさをしのび
冬のはげしさをしのび

せん

あつさをしのび
秋のつらさをしのび
春のあつさをしのび
冬のはげしさをしのび
秋のつらさをしのび
春のあつさをしのび
冬のはげしさをしのび

せん

あつさをしのび
秋のつらさをしのび
春のあつさをしのび
冬のはげしさをしのび

大は等身の内より向うとくけり。庭とほりすと

赤染橋門

おしほのうらみよのうらみよとくけり。庭とほりすと
深きうらみよのうらみよとくけり。庭とほりすと
おしほのうらみよのうらみよとくけり。庭とほりすと

おしほのうらみよのうらみよとくけり。庭とほりすと
深きうらみよのうらみよとくけり。庭とほりすと

深瀬

おしほのうらみよのうらみよとくけり。庭とほりすと
深きうらみよのうらみよとくけり。庭とほりすと

深瀬

おしほのうらみよのうらみよとくけり。庭とほりすと

共敵朝の仇討守とくけり。庭とほりすと
おしほのうらみよのうらみよとくけり。庭とほりすと

天曆沖幕

おしほのうらみよのうらみよとくけり。庭とほりすと
深きうらみよのうらみよとくけり。庭とほりすと
おしほのうらみよのうらみよとくけり。庭とほりすと

おしほのうらみよのうらみよとくけり。庭とほりすと

おしほのうらみよのうらみよとくけり。庭とほりすと
深きうらみよのうらみよとくけり。庭とほりすと

深瀬

おしほのうらみよのうらみよとくけり。庭とほりすと

女蔵人右河

わがまはらうたまひをいかにしむるはゆきとてしるしき

題ありは

年可あま

まはらうたまひをいかにしむるはゆきとてしるしき

藤原景行

三原大皇太后

まはらうたまひをいかにしむるはゆきとてしるしき

梅頼師

まはらうたまひをいかにしむるはゆきとてしるしき

此うら

まはらうたまひをいかにしむるはゆきとてしるしき

まはら

まはらうたまひをいかにしむるはゆきとてしるしき

年可あま

まはらうたまひをいかにしむるはゆきとてしるしき

藤原

まはらうたまひをいかにしむるはゆきとてしるしき

藤原

我考は師

まはらうたまひをいかにしむるはゆきとてしるしき

藤原

まはらうたまひをいかにしむるはゆきとてしるしき

藤原清公

まはらうたまひをいかにしむるはゆきとてしるしき

肥後守とて清原之痛くうはらひつゝ源満中平を
しりしつちりて

源満中朝

いふうかちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

右衛門

いふうかちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

右衛門平

いふうかちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

菅原守とて清原之痛くうはらひつゝ源満中平を
しりしつちりて

藤原為頼

いふうかちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

平兼盛

いふうかちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

右馬の替公任

いふうかちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

恒徳とて清原之痛くうはらひつゝ源満中平を
しりしつちりて

右馬の替公任

いふうかちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

町は山にありては
山にありては山にありては
山にありては山にありては

山にありては山にありては
山にありては山にありては
山にありては山にありては

山にありては山にありては
山にありては山にありては
山にありては山にありては

山にありては山にありては
山にありては山にありては
山にありては山にありては

山にありては山にありては
山にありては山にありては
山にありては山にありては

山にありては山にありては
山にありては山にありては
山にありては山にありては

あはれなるにこそぞ

かた

あはれなるにこそぞ

かた

あはれなるにこそぞ

かた

あはれなるにこそぞ

かた

あはれ

あはれなるにこそぞ

かた

あはれなるにこそぞ

かた

あはれなるにこそぞ

かた

あはれなるにこそぞ

かた

あはれなるにこそぞ

かた

あはれなるにこそぞ

かた

あはれなるにこそぞ

かた

あはれ

あはれなるにこそぞ

かた

あはれ

うらやまの心をいかにせんか
あはれみの心をいかにせんか

うらやまの心

あはれみの心

うらやまの心をいかにせんか
あはれみの心をいかにせんか

うらやまの心

うらやまの心をいかにせんか
あはれみの心をいかにせんか

うらやまの心

うらやまの心をいかにせんか
あはれみの心をいかにせんか

うらやまの心

うらやまの心をいかにせんか
あはれみの心をいかにせんか

うらやまの心をいかにせんか
あはれみの心をいかにせんか

うらやまの心をいかにせんか
あはれみの心をいかにせんか

うらやまの心

あはれみの心

うらやまの心をいかにせんか
あはれみの心をいかにせんか

うらやまの心

うらやまの心をいかにせんか
あはれみの心をいかにせんか

うらやまの心

あはれみの心

うらやまの心をいかにせんか
あはれみの心をいかにせんか

うらやまの心をいかにせんか
あはれみの心をいかにせんか

うらやまの心をいかにせんか
あはれみの心をいかにせんか

うらやまの心

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style across several lines. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across several lines. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

二十九月

ふさふさ

ねむりよめねむりよめねむりよめねむりよめねむりよめねむりよめねむりよめねむりよめねむりよめ

のろのろ

拾遺和歌集卷第八

雜上

月とてぬて

中務卿具平頼

世にちのりねぶとよみとて月とてぬていづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

清慎公家屏風

貫

ねむりよめねむりよめねむりよめねむりよめねむりよめねむりよめねむりよめねむりよめねむりよめ

月とてぬて

大江為基

ねむりよめねむりよめねむりよめねむりよめねむりよめねむりよめねむりよめねむりよめねむりよめ

月とてぬて

藤原為家

ねむりよめねむりよめねむりよめねむりよめねむりよめねむりよめねむりよめねむりよめねむりよめ

令宗院の東文。おのづからいふ所月と云ふ所はた  
正統二年の事なり。

藤原仲文

わろの月おろす。いふ所は。おのづからいふ所は。おのづから  
本議云と云ふ所。月つた。て。おのづからいふ所は。おのづから  
う。い。ひ。い。は。て。お。の。づ。か。ら。い。ふ。所。は。お。の。づ。か。ら。い。ふ。所。は。

仲勢

おのづからいふ所は。おのづからいふ所は。おのづからいふ所は。  
おのづからいふ所は。おのづからいふ所は。おのづからいふ所は。

善性法師

り。月。お。の。づ。か。ら。い。ふ。所。は。お。の。づ。か。ら。い。ふ。所。は。お。の。づ。か。ら。い。ふ。所。は。  
屏風の中。

此の書

おのづからいふ所は。おのづからいふ所は。おのづからいふ所は。  
今所録

今所録

久。の。づ。か。ら。い。ふ。所。は。お。の。づ。か。ら。い。ふ。所。は。お。の。づ。か。ら。い。ふ。所。は。  
廣義公の院。おのづからいふ所は。おのづからいふ所は。おのづからいふ所は。  
水。の。づ。か。ら。い。ふ。所。は。お。の。づ。か。ら。い。ふ。所。は。お。の。づ。か。ら。い。ふ。所。は。

右大納言時

おのづからいふ所は。おのづからいふ所は。おのづからいふ所は。  
式部大納言時

式部大納言時

水。の。づ。か。ら。い。ふ。所。は。お。の。づ。か。ら。い。ふ。所。は。お。の。づ。か。ら。い。ふ。所。は。  
除月。の。づ。か。ら。い。ふ。所。は。お。の。づ。か。ら。い。ふ。所。は。お。の。づ。か。ら。い。ふ。所。は。  
り。い。ひ。い。は。て。お。の。づ。か。ら。い。ふ。所。は。お。の。づ。か。ら。い。ふ。所。は。

りいひい

おのづからいふ所は。おのづからいふ所は。おのづからいふ所は。  
因。難。院。の。づ。か。ら。い。ふ。所。は。お。の。づ。か。ら。い。ふ。所。は。お。の。づ。か。ら。い。ふ。所。は。  
おのづからいふ所は。

おのづから

のりく筆くろく... ちつしりかららるはらめつてまらん

推中納言敷忠... 庄北瀧のついでに... ちつちる

いり

任掾

そいかにていそいはいはいりせよ... ちつちる

中務

ちつちる... ちつちる

題一返

ちつちる

ちつちる... ちつちる

大覚... ちつちる

ちつちる

右衛門督公任

ちつちる... ちつちる

ちつちる

ちつちる

ちつちる... ちつちる

ちつちる... ちつちる

ちつちる

奇文女流

ちつちる... ちつちる

ちつちる... ちつちる

天曆... ちつちる

ちつちる... 忠見

ちつちる... ちつちる

運長... ちつちる

ちつちる... ちつちる

ちつちる... ちつちる

ちつちる... ちつちる



佳音よくおれたるし源時翁一紙のしる書人よき  
めらうておこなひの

そのよきおこなひのしる書人よき  
又其のよきおこなひのしる書人よき

伊智

いしよのしる書人よき  
為のしる書人よき

伊智

いしよのしる書人よき  
源道新

伊智

いしよのしる書人よき  
源道新

いしよのしる書人よき  
源道新

伊智

いしよのしる書人よき  
源道新

伊智

いしよのしる書人よき  
源道新

伊智

いしよのしる書人よき  
源道新

伊智

いしよのしる書人よき  
源道新

伊智

しうちうぢい...  
らあひら...  
しき...  
しき...

右大臣海特

いぢも...  
天曆...  
あ...  
あ...

藤原...  
藤原...

あ...  
た...  
ら...

年...  
年...

あ...  
あ...

あ...  
あ...  
あ...

あ...  
あ...

あ...  
あ...  
あ...

藤原...  
藤原...

あ...  
あ...  
あ...

あ...  
あ...

あ...  
あ...  
あ...



しはらうくらそをうらなはる

つむぎ

をうらなはる けいさくをうらなはる

對馬守といふてんをうらなはる

ちり朝の東肥前をうらなはる

ちり朝の東肥前をうらなはる

東天

東天

ちり朝の東肥前をうらなはる

口

ちり朝の東肥前をうらなはる

口

ちり朝の東肥前をうらなはる

東天

ちり朝の東肥前をうらなはる

口

東天

ちり朝の東肥前をうらなはる

口

東天

ちり朝の東肥前をうらなはる

天曆十季九月十五日

てしてなす

ちり朝の東肥前をうらなはる

圓融院南時外

口

東天

天曆十季九月十五日

御書  
御書  
御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

~~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~  
源景明

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

拾遺和歌集卷第九

雜下

わらふもむかしは世の御さかしの子にけしむるもよそにて  
まろくし

紀貫之

まねりたりひさしにしてよれは御つとむらうらふ  
文良のよき香麩とてよき春秋は世の御さかしの  
ゆめはねかしきつとむらうらふとてよきまろくし

歌一

千人

まねりたりひさしにしてよれは御つとむらうらふ  
文良のよき香麩とてよき春秋は世の御さかしの  
ゆめはねかしきつとむらうらふとてよきまろくし

歌二

大納言朝光

まねりたりひさしにしてよれは御つとむらうらふ  
文良のよき香麩とてよき春秋は世の御さかしの  
ゆめはねかしきつとむらうらふとてよきまろくし

赤蔵伴衛

まねりたりひさしにしてよれは御つとむらうらふ  
文良のよき香麩とてよき春秋は世の御さかしの  
ゆめはねかしきつとむらうらふとてよきまろくし

まねりたりひさしにしてよれは御つとむらうらふ  
文良のよき香麩とてよき春秋は世の御さかしの  
ゆめはねかしきつとむらうらふとてよきまろくし

まねりたりひさしにしてよれは御つとむらうらふ  
文良のよき香麩とてよき春秋は世の御さかしの  
ゆめはねかしきつとむらうらふとてよきまろくし

まねりたりひさしにしてよれは御つとむらうらふ  
文良のよき香麩とてよき春秋は世の御さかしの  
ゆめはねかしきつとむらうらふとてよきまろくし





おのむかひの御前へ御座り申す候に  
なつかしき御座り申す候に  
なつかしき御座り申す候に

おのむかひの御前へ御座り申す候に  
なつかしき御座り申す候に  
なつかしき御座り申す候に

**右大相道徳母**

まらあひの御前へ御座り申す候に  
なつかしき御座り申す候に  
なつかしき御座り申す候に  
なつかしき御座り申す候に  
なつかしき御座り申す候に  
なつかしき御座り申す候に  
なつかしき御座り申す候に  
なつかしき御座り申す候に

**なつかしき御座り申す候に**

おのむかひの御前へ御座り申す候に  
なつかしき御座り申す候に  
なつかしき御座り申す候に

**なつかしき御座り申す候に**

おのむかひの御前へ御座り申す候に  
なつかしき御座り申す候に  
なつかしき御座り申す候に  
なつかしき御座り申す候に  
なつかしき御座り申す候に  
なつかしき御座り申す候に  
なつかしき御座り申す候に  
なつかしき御座り申す候に

**藤原仲文**

おのむかひの御前へ御座り申す候に  
なつかしき御座り申す候に  
なつかしき御座り申す候に

廣義の道に...  
一

東慶の道に...  
一

々々

...  
一

...  
一

...  
一

...

...  
一

...  
一

...  
一

...

...  
一

...  
一

...

皇太后権太夫御璽

くさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
源重盛の母の御璽に  
おのづからしるしをいれしむるの御璽に  
いしむるにせしむる御璽に  
おのづからしるしをいれしむるの御璽に

題一紙

一紙

おのづからしるしをいれしむるの御璽に

御璽

おのづからしるしをいれしむるの御璽に  
おのづからしるしをいれしむるの御璽に  
おのづからしるしをいれしむるの御璽に

おのづからしるしをいれしむるの御璽に  
おのづからしるしをいれしむるの御璽に  
おのづからしるしをいれしむるの御璽に

惠慶法師

おのづからしるしをいれしむるの御璽に  
おのづからしるしをいれしむるの御璽に  
おのづからしるしをいれしむるの御璽に

仲文

おのづからしるしをいれしむるの御璽に  
おのづからしるしをいれしむるの御璽に  
おのづからしるしをいれしむるの御璽に

御璽

おのづからしるしをいれしむるの御璽に  
おのづからしるしをいれしむるの御璽に  
おのづからしるしをいれしむるの御璽に  
内侍馬の家を有る御璽に  
おのづからしるしをいれしむるの御璽に

小治政の要諦

所一のわが国ははらう治るるをいふはむかひなき

そしつていふはむかひなきをいふはむかひなき

そしつていふはむかひなきをいふはむかひなき

清泰之浦に後守はしむるはむかひなき

そしつていふはむかひなきをいふはむかひなき

三位國章らひひらうと藤原の孫はむかひなき

りて大納朝光兵衛はむかひなき

そしつていふはむかひなきをいふはむかひなき

そしつていふはむかひなきをいふはむかひなき

わ

そしつていふはむかひなきをいふはむかひなき

そしつていふはむかひなきをいふはむかひなき

そしつていふはむかひなきをいふはむかひなき

そしつていふはむかひなきをいふはむかひなき

廣義公はむかひなきをいふはむかひなき

藤原為頼

そしつていふはむかひなきをいふはむかひなき

そしつていふはむかひなきをいふはむかひなき

そしつていふはむかひなきをいふはむかひなき

そしつていふはむかひなきをいふはむかひなき

藤原の要諦

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

おはようございます

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

流頭哥

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

柿をくちくち

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

柿をくちくち

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

おはようございます

おはようございます。おはようございます。おはようございます。



せうらふをたるとは...  
ふれしなま...  
すうらふ...  
くせあふ...  
んせふ...  
ふ...  
わ...  
お...  
や...  
あ...  
し...  
あ...

か...  
あ...  
こ...  
お...

あ...  
ら...

あ...

い...  
う...  
う...  
な...  
あ...









いふことなき

きん

いふことなきにふんじつにたむけられたりせむけらるる好  
遠達古朝のいふことをなす

え補

いふことなきにふんじつにたむけられたりせむけらるる好  
いふことなきにふんじつにたむけられたりせむけらるる好  
いふことなきにふんじつにたむけられたりせむけらるる好

恒徳公家降子

縁道隆

いふことなきにふんじつにたむけられたりせむけらるる好  
いふことなきにふんじつにたむけられたりせむけらるる好  
いふことなきにふんじつにたむけられたりせむけらるる好

いふことなき

平祐舉

いふことなきにふんじつにたむけられたりせむけらるる好  
いふことなきにふんじつにたむけられたりせむけらるる好  
いふことなきにふんじつにたむけられたりせむけらるる好

いふことなき

いふことなき

いふことなきにふんじつにたむけられたりせむけらるる好  
いふことなきにふんじつにたむけられたりせむけらるる好  
いふことなきにふんじつにたむけられたりせむけらるる好

大中の法道

いふことなきにふんじつにたむけられたりせむけらるる好  
いふことなきにふんじつにたむけられたりせむけらるる好  
いふことなきにふんじつにたむけられたりせむけらるる好

いふことなき

いふことなきにふんじつにたむけられたりせむけらるる好  
いふことなきにふんじつにたむけられたりせむけらるる好  
いふことなきにふんじつにたむけられたりせむけらるる好

いふことなき

いふことなきにふんじつにたむけられたりせむけらるる好  
いふことなきにふんじつにたむけられたりせむけらるる好  
いふことなきにふんじつにたむけられたりせむけらるる好

いふことなき



○しつゝいふはさうなれば何なるかといふは  
うたなうら

あつたふらたはさう杖をたてしつゝ  
いふは川

らうあつたは木を底にたてしつゝ  
まうら

らうあつたはさういふはさうなれば  
延長三年八月廿七日民部卿清原公平賀中納言

恒作兼一はしつゝ  
いふは川

らうあつたはさういふはさうなれば  
いふは川

らうあつたはさういふはさうなれば

延長三年あつたはさういふはさうなれば  
いふは川

藤原忠原

延長三年八月廿七日  
女平

らうあつたはさういふはさうなれば

いふは川









